

兵庫県中南部・法華山谷川の淡水カメ捕獲調査報告(2012年)

門脇一貴・長田昌之・北詰達哉

関西遊亀会

Records of freshwater turtles in Hokkesandanigawa River of south-central Hyogo prefecture (2012).

By Kazutaka KADOWAKI, Masayuki NAGATA and Tatsuya KITADUME

Kansai-Yukikai

はじめに

関西遊亀会は、1988年に、中学・高校のカメ好き同級生の仲間が集まり、情報交換の場として発足しました。会員が成長するとともに、カメを飼うだけでは飽き足らず、観察・研究へ、そして繁殖へと、アマチュアながら地道に活動を続けてまいりました。近年では社会の自然保護運動の高まりを背景に、私達にも何かできることはないか、私達が育った川を守ろう、ということでカメが住む川の清掃や、繁殖したニホンイシガメの放流、ミシシippアカミガメの駆除等をコツコツとやっていました。そのような折り、思わぬ巡りあわせにより神戸市立須磨海浜水族園の方々と知り合い、日本本来の川や池の生態系を保全したいという思いが一致しているということになり、関西遊亀会の会員は水族園の外部調査員として、淡水カメの生息と生態の調査をすることになりました。

2012年4月17日付の神戸新聞朝刊に、兵庫県の河川整備事業計画に法華山谷川が含まれているとの報道記事がありました。地域住民の安全を守るための工事とはいえ、カメを含む多くの生物たちが住む自然環境が失われていく事は確実であり、寂しさと残念さを感じずにはおれませんでした。そこで、そこに住んでいるカメの記録を残し、できればカメ達を救出することを目的に、調査と救出をはじめることになりました。

調査場所と方法

兵庫県中南部の中型地方都市である加古川市と高砂市をまたがって流れる法華山谷川は、日本のどこにでも見られる様な水田地帯を縫って流れるゆるやかな川です(図1)。川からは無数のコンクリート用水路が引かれてはいますが、本流の一部はまだ手付かずのままの自然岸が残されています。そこは野生生物の暮らしやすい住み処にはなっているものの、台風や大雨の災害時には地域住民に被害をもたらす非常にやっかいな場所ともなっています。そのため、兵庫県は2013年度より5年計画で法華山谷川の河川整備工事を決定しました。事業費約150億円。対象地域は上流部にある加古川市志方町畑から下流である高砂市荒井町千鳥までの13.3kmとし、河幅拡張と川底掘削作業、水門とポンプ場を増設工事するとのことです。なお、法華山谷川は一級河川である加古川とは水系を異にし、漁業権は



図1a. 調査場所の兵庫県中南部の加古川市及び高砂市



図1b. 法華山谷川の加古川市西神吉町辻付近



図1c. 法華山谷川の高砂市神爪付近

存在しません。

調査対象地域はこの河川整備事業計画にある区域としました(法華山谷川水系河川整備計画参照)。調査を行ったのは2012年5月1日より10月30日までの間の38日間です。調査は主にタモ網を用いて捕獲をしました。罾の使用はどうしてもカメの事故死が避けられないため、極力用いない様になりました。そのため、雌雄の捕獲数のバランスに偏りがあることは否めません。関西遊亀会の活動目的はカメの個体の保護にあります。どんなカメでも絶対に殺しません。捕獲したクサガメは近隣の河川へ移動させ、ミシシippアカミガメは繁殖不可能で隔離されている池へ移動させました。

調査結果

以下は2012年の法華山谷川の淡水カメの捕獲調査報告です。

1. クサガメ

調査期間中に71頭捕獲(タモ網による捕獲51頭, 罾による捕獲20頭)。背甲長5cm程度の幼体も多数確認され、自然繁殖が行われていると推察できました。

2. ミシシippアカミガメ

調査期間中に雌雄合わせて148頭捕獲(タモ網による捕獲125頭, 罾による捕獲23頭)。幼体も多数捕獲され、自然繁殖していることは確実です。7月18日には川沿いの休耕田にて産卵する背甲長17cmの雌も観察されました(図2)。8個産卵したので、門脇が卵を自宅に持ち帰り、経過観察を行ったところ、9月14日(58日目)に5頭の孵化を確認しました(図3)。8月1日にはミシシippアカミガメの変異個体(雌, 背甲長10cm)を捕獲(図4)。背甲の様は一見してミシシippアカミガメのテキサス地域生息群に似るも、耳が黄色であり、頭頂部または頭側部のラインの数も一般的なミシシippアカミガメとの差異が見



図2. 7月18日法華山谷川沿いの休耕田に産下されたミシシippアカミガメの卵



図3. 産卵から58日目の9月14日にふ化したミシシippアカミガメ

られました。何らか他種のスライダ一属との交雑も考えられました。

3. ニホンイシガメ

5月28日にタモ網にて1頭(雌、背甲長18.5cm・体重1.1kg)捕獲したのみ。これはクサガメ、ミシシippアカミミガメの捕獲数に比べてかなり低い生息比率です。この個体は門脇自宅飼育場にて6月9日、7月27日と二度に分けて合計7個産卵しましたが(図5)、孵化はしませんでした。

4. スッポン

5月27日～6月26日に4頭のスッポンをタモ網で採取しました。以下はその背甲長と体重。雄1個体；25cm・1.5kg, 雌3個体；26cm・2.1kg, 28cm・2.6kg, 27cm・2.0kg。いずれも膝丈あたりまでの浅瀬または陸地にて日光浴をしているところを捕獲。雌の3頭は門脇自宅飼育場にて産卵。それぞれ、合計45個、56個、8個産みました(図6、詳細はp14亀卵記録参照)。平均的な卵の直径は2.2cm。多くが水中で産卵してしまいましたが、うち24個が孵化しました(図7)。孵化直後の幼体の平均背甲長3cm・体重4g。スッポンは自然繁殖していると考えられます。

5. カミツキガメ

5月29日の雨上がりの早朝、加古川市西神吉大国(図8)にて門脇がカミツキガメを発見、捕獲する(図9)。水中に潜ろうとするところを土手上から発見、後部縁甲板と太い尾からカミツキガメと判断、即座に川に入り、素手にて捕獲するも、その大きさ(全長50cm・背甲長31cm・体重9.6kg)と凶暴さに辟易。あまりの力強さに押さえこむことも容易ならず。その時、昔読んだ漫画・釣りキチ三平のエピソードを思い出し、着ていた作業衣を脱いでカミツキガメの頭部を覆い、目隠しをしておとなしくさせることに成功。ようやく抱えこんで土



図4. 8月1日に捕獲したミシシippアカミミガメの変異個体



図5. 6月9日に飼育場で産卵したニホンイシガメ



図6. スッポンの卵



図7. 孵化したスッポンの子ガメ

手にはい上がることができた。アゴ下ヒゲ状突起2本を確認、ホクベイカミツキガメ(コモンスナッパー)の雄と同定する。後日、須磨海浜水族園に引き渡す。引き渡しまでの間、自宅小屋にて保持観察、糞中よりアメリカザリガニの断片が見つかる。

6. ワニガメ

6月25日、北詰が加古川市西神吉大国(図8)にて発見、捕獲。先日のカミツキガメ発見と同じ場所。やはり雨上がりの翌日早朝、雨で濁った泥水水面より吻端を出すワニガメを発見。瞬時に姿を消すも、頭部形状によりワニガメと判断、大きさを推測。濁って見えない水中にタモ網の柄を挿し、まるで座頭市のようにあたりを突き回して探索。見つけ出してタモ網を被せるも、あまりにも強大なため、体重85kgの北詰がワニガメによって水中に引きずりこまれてしまう始末。30分以上格闘し、ようやく陸地に引き上げることに成功する。電話で呼び出された門脇が現場に到着してみると、北詰はまるで浦島太郎のようにワニガメにまたがり、すっかり疲労困憊の様子であった。ワニガメは疲れ知らずで暴れ続け、非常に凶暴。押さえる門脇の手の指の生爪が剥がれる。後に警官2名が駆け付け、ワニガメを保持。連絡を受けてやって来た須磨海浜水族園淡水カメ調査班4人を含め、大人8人がかりの大捕物となる。体内からはマイクロチップは検出されず。遺失物ではないことを確認し、即時、水族園引き渡しとなる。全長1.3m・背甲長56cm・体重45kg、雄(図10)。

後日、神戸新聞と毎日新聞にその様子が紹介された。北詰は20年前、まだワニガメ飼育が珍しかった頃、自身が飼育していた巨大ワニガメが脱走し、姫路市立水族館に保護され新聞報道された経験があり、今回で二度目のワニガメ記事掲載であった。

7. リバークーター(コンキンナヌマガメ)

7月14日、門脇がタモ網にて捕獲。最初に手にとった時、あまりの大きさに、すわ、ミシシippアカミガメの日本国内最大記録(背甲長約28cm)更新か?と色めき立ったが、よく見るとどうもミシシippアカミガメとは違った外部形態であった。インターネット



図8. カミツキガメ及びワニガメを捕獲した加古川市西神吉大国付近の法華山谷川



図9. 5月29日に捕獲したカミツキガメ



図10. 6月25日に捕獲したワニガメ



図11. 7月14日に捕獲したリバークーター

上で交流のある日本爬虫両棲類学会員のK氏により知見をいただき、リバークーター(コンキンナヌマガメ)と同定した(図11)。背甲長29.3cm・体重3.0Kg, 雌。産卵に期待するも卵は得られず。

おわりに

雌雄の判別, 体長, 体重の記録が叶わず, 不十分な調査結果に終わってしまったことは残念でしたが, 大規模な改修工事が行われる直前の自然が残ったままの法華山谷川における淡水カメの記録を残せ, 私達ができる範囲での努力が尽くせたと思っております。調査中に偶然にも川岸に営巣しているカルガモの親子を見つけ, 仲良く泳ぐ姿を見ながら, ヒナの成長を見守り続けることを調査行のひとつの楽しみとしていたのです。ところが, 6月の台風4号の襲来により川は危険水域に達するほど水があふれかえり, 川岸は無惨にも荒れ果て, 全て濁流に飲み込まれてしまい, カルガモ親子は巣共々どこかへ流されてしまったのです。あらためて自然の残酷さを思い知らされたりもしました。無論カメたちも同様です。カメたちにとっては災難である工事の期間中, カメたちもどこかへ避難してしぶとく生き残ってくれることを願わずにはいられません, こればかりは何とも言えません。あとは, 工事終了後の生態バランスの崩れた同川でのミシシッピアカミミガメの爆発的繁殖を食い止めると同時に, 継続的な淡水カメの調査を行うことが, 私達関西遊亀会の仕事だと思っております。

神戸市立須磨海浜水族園・さかなライブ劇場にてワニガメ常設展示中！！



ワニガメ *Macrochelys temminckii*

愛称:ゲーター